



特集

2-2

高齢者が主体となった、 老人クラブの高齢消費者 被害防止活動

公益財団法人 全国老人クラブ連合会

老人クラブ「高齢消費者被害防止 キャンペーン」の展開

全国老人クラブ連合会(以下、全老連)*1は、2014年度から高齢者が主体となった「老人クラブ『高齢消費者被害防止キャンペーン』(以下、キャンペーン)」を展開しています。

老人クラブはこれまでもクラブ活動や市区町村の老人クラブ連合会(以下、老連)における会議や研修会等、会員が多く集まる機会を利用して、消費生活センターや警察など関係者の方々を招いて学習や啓発活動に取り組んできました。

しかし、近年、高齢者をねらう詐欺事件が大きな社会問題となるなか、取り組み方法を見直して、見守られる側としての「受け身」の姿勢から転じ、互いに見守り合い、関係機関と連携して情報を発信するなど、「主体的」な立場で取り組みを呼びかけています(写真1)。

見守りサポーターの役割 ～「伝える」「気にかける」「つなげる」

キャンペーンの柱は、集落単位にある老人クラブに「見守りサポーター」を設置することと、関係者との連携を深めることです。「見守りサポーター」の役割としては、「伝える」「気にかける」「つなげる」の3点を掲げています。具体的には活動や日常生活を通じて、クラブの仲間や

地域の高齢者に被害防止情報を「伝える」こと。家の周辺の不審なようすや困っている高齢者のサインを見逃さないように「気にかける」こと。そして、消費生活センターや地域包括支援センターなど関係機関と高齢者の「つなぎ役」となって、不審な事例や高齢者からの情報を提供して、被害防止に役立てることで。

13,000人の見守りサポーター養成

キャンペーンの推進に向けて、全老連では見守りサポーター養成を中心にしたモデル事業を実施しています。講座の内容は、「見守りサポーターの役割と今後の取り組み」、地元の消費生活センターや警察などによる「消費者トラブルの現状」が中心で、消費者庁作成DVD「高めよう!『見守り力』」*2も学習教材に使っています。終了後、参加者には3つの役割を記載した「見守りサポーター証」(写真2、写真3)を渡します。このモデル事業を通じて養



写真1 街頭での高齢者の被害防止キャンペーン(横浜市都筑区老連)



写真2 見守りサポーター証

*1 (公財)全国老人クラブ連合会ホームページ
<http://www.zenrouren.com/about/index.html>

*2 消費者庁「高めよう!『見守り力』」
http://www.caa.go.jp/information/mimamori/movie_001.html



成した見守りサポーターは、3年間で約13,000人(176モデル市区町村老連)になります(2016年度予定を含む)。

● モデル市区町村老連の取り組み例

奈良県大和郡山市老人クラブ連合会

昨年7月に地元警察と消費生活センターを招いて講座を開催、270名が参加しました。終了後、矢田地区老連が開いた「再認識講座」には、見守りサポーター80名に会員や地域の人も加わり100名が参加しました。講師を務めた地元派出所のお巡りさんとは、日頃から気軽に話しができるようになりました。警察からは、昨年、市内の詐欺被害の件数が減少し、老人クラブの取り組みの効果があったと報告がありました。

群馬県高崎市城南地区長寿会連合会

見守りサポーターは33名。2～3名のグループに分かれて月1～2回、地域の巡回と一人暮らし高齢者を対象にした訪問活動を行っています。さらにオリジナルジャンパーやタスキを着用して啓発活動に取り組んでいます。これらの活動が地域に根付き、不審な電話や訪問などの情報がサポーターに寄せられるようになりました。また、還付金詐欺の電話を受けた人が、見守りサポーターのことを思い出して金融機関に確認し、被害にあわずに済んだという報告もありました。

札幌市老人クラブ連合会

モデル事業を終了した2015年度より、札幌市が主催する「消費者講座」を札幌市老連向けに開催してもらい、引き続き見守りサポーター養成に取り組んでいます。モデル期間を含めてこれまでに養成した見守りサポーターは245名になります。

支援の輪を広げるしくみづくり

高齢者をねらう詐欺被害の手口はますます巧妙になり、高齢者一人ひとりの注意では防ぎきれないと考えています。家族はもとより、地域住民など大勢が関わるしくみづくりが必要ではないかと思えます。例えば約770万人といわれる「認知症サポーター」のような取り組みです。認知症サポーターは地域や職場、学校等いろいろな場所で養成が行われ、住民や金融機関、スーパーの従業員、学生などさまざまな人が参加しています。そして認知症サポーターが身に着けるオレンジリングは、人々の関心を高めるきっかけになっています。こうした多くの人の参加に向けたしくみづくりと視覚化を通じて、地域で詐欺被害を防いでいくことが大切だと考えています。



写真3 自治体との共催で行われる見守りサポーター養成講座(神戸市老連)

老人クラブ

● 活動の目的

仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする楽しい活動を行うとともに、知識や経験を生かして地域の諸団体と共同し、地域を豊かにする社会活動に取り組むことなど。

● 組織

1つのクラブはおおむね60歳以上の会員により30名から100名の規模で構成される。運営は自主的に行われ、財源は基本的に会費により賄われるが、国や自治体から支援を受けている。

● 連合会

日常的に声を掛け、徒歩で集まれる範囲の単位クラブを核に、市区町村、都道府県・指定都市、全国老人クラブ連合会へと展開。単位クラブ数105,532、会員数6,061,681人(2015年3月末)